

静岡放送

活動名	SBS 読み聞かせ活動
実施期間	令和 7 年 5 月～令和 8 年 1 月
実施回数	会場 6 回

【事業実施の成果・課題】

<東海大静岡翔洋高放送部指導・成果>

指導した放送部員 3 人が夏の全国大会に出場し、秋の静岡県新人コンクールでは、朗読部門とアナウンス部門でそれぞれ優勝した。

<静岡視覚支援小学校・成果>

静岡市美術館で開催中の「かがくいひろしの世界展」に関連したイベントを、静岡視覚特別支援学校で実施しました。絵本の読み語りとワークショップを実施する中で、子どもたちの反応が非常によく、豊かな想像力で物事を受け止める姿が見られ、この企画を実施した成果を強く感じています。

<大川小中学校、光の森学園小中学校、中藁科小学校・課題>

「課題」と捉えているわけではありませんが、「読み聞かせ授業」の実施を提案すると、アナウンサーの仕事について、キャリア教育の一環で話をしてほしいというリクエストが学校側から必ずあります。実態としては、「読み聞かせ」に留まらず、そうした職業講話と一体の授業を展開していることが多いことをご理解いただければと思います。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<呉服町こどもゼミな～る 滝澤悠希アナウンサー>

「長所をたくさん見つけ褒める」ことを意識しました。子どもたちが少しでも話すことが好きになっていたらうれしい。私自身もアナウンスの基本に立ち返るいい機会になりました。

<大川小中学校 野路毅彦アナウンサー>

「パピペポで始まる言葉を探してみよう」という授業は初めてでしたが、子どもたちの食いつきがよく手ごたえを感じた。

<静岡視覚特別支援学校 重長智子アナウンサー>

目の不自由な児童を前にしての読み語りという初めての機会でした。そのため、どのように物語を届けるかを工夫し、絵本の情景を細かく描写しながら進めました。結果として、ページをめくるたびに子どもたちが反応を示してくれました。絵本の持つ楽しさが伝わったのであれば嬉しいです。

＜静岡視覚特別支援学校 太田学芸員＞

重長さんの素敵な読み語りに、子どもたちもすっかり虜になっていましたね。「みんなが楽しめる」ことを一番に目指した造形活動では、思わぬオノマトペとともに個性豊かな「だるまさん」が生まれました。それをみんなで共有し笑い合えたことが、とても印象深く残っています。

＜静岡視覚特別支援学校 事業担当者である静岡放送地域ビジネス推進局・竹内昭子さん＞

絵本の読み語りでは、重長アナウンサーの読みに合わせて子どもたちが体を揺らしたり、オノマトペを体のポーズで表現したりする姿が見られました。きっと、目の見える人以上に耳でとらえた情報を彼らの中で膨らませ、体全体で感じ取っているのだと思いました。粘土のだるまさん作りでは、手だけではなく足で粘土をこねる子どもや、粘土の表面に跡をつける道具として用意したストローを、粘土にさした状態で作品を完成させる子どももいて、その自由な発想に驚かされるばかりでした。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

＜呉服町こどもゼミナール・保護者の感想＞

- ・アナウンサーの生の声が聞けて、子どもも刺激になったと思います。子どもたちが緊張しながらも頑張っている姿を見ることができ、このような企画をいただきありがとうございます。(藤枝市 11 歳児童の母)
 - ・毎年やってほしいと思った。とてもよかった。(静岡市葵区 10 歳児童の母)
 - ・話をする際のポイントや、読み方のコツなどを教えていただいてよかった。先生のほめて下さる様子がとてもよく、子どもたちの自信につながりました。(静岡市葵区 9 歳児童の父)
 - ・アナウンサーに会えるのは貴重でした。マイクを使って喋ることができたら、さらに良いと思いました。(静岡市清水区 9 歳児童の母)
 - ・いつもテレビで見ているアナウンサーに会えて、親子ともに嬉しかった。自由に話す子どもたちの言葉を遮ることなく進めてくれる様子はさすがだなと思いました。職場・自治会・PTA など大人になって人前で話すこと、司会進行していくことがあります。
- 今回の講座を見学し、とても勉強になりました。(静岡市葵区 11 歳児童の両親)
- ・アナウンサーの話の聞き方がとても上手で勉強になりました。原稿を見せてもらえてうれしかった。(静岡市葵区 9 歳児童の母)
 - ・人前に出るのが苦手な子ですが、これは自分でやりたいと言って応募しました。当日、風邪で鼻声を気にしていたようですが、新しい世界がのぞけて良い経験ができたと思います。(静岡市駿河区 9 歳児童の母)
 - ・実際に原稿を読んだことで、アナウンサーという仕事のイメージが具体的になったと思う。どうやったら、人に伝えやすいかということを教えてもらい勉強になった。(静岡市葵区 11 歳児童の母)
 - ・自分自身のことについて、なかなか時間内に深く伝えるということが大変なので、ちゃんと考える練習にもなりました。また参加したい。(静岡市 9 歳児童の母)

＜東海大静岡翔洋高・放送部員の感想＞

- ・今日のレッスンでは、自分が今ぶち当たっていた壁に真正面から向き合い、学ぶことができました。自分が苦手な発音をどのようにしたら言えるようになるのかずっと考えてはいましたが、解決策が見

つからず意識することしかできなかったのですが、今回のレッスンで「しゃ・し・しゅ・しえ・しょ」の発音練習を学ぶことができとても勉強になりました。今後自分の練習に取り入れできれば全体の練習にも取り入れていけるように考えていこうと思います。(部長・望月結愛さん 3 年 夏の全国大会出場)

- ・レッスンで語尾の口を縦にすると綺麗に発音出来ることを実践したらとっても話しやすくなりました。全体レッスンの五十音の解説を聞いて、言葉って理論なんだとスッキリ入ってきました。ただ発音、発声をするのではなく、どんな音なのかどういった口の動きなのかを知ることが上手になる足がかりなんだなと思いました。基本ですが文の中で伝えたいところは何かを考える必要があるなと思いました。文を自分で作るとあれもこれも必要だ…と立ててしまいましたが、一番言いたいことは何？とならないように読みたいなと感じました。今日指摘していただいた「イチロー選手からの」ボールを打った所がじっくり来ました。他の方のレッスンも同席させて頂きここが違うのか…この表現もあるのかと学べました。今日のレッスンで読むのが更になくなったので頑張っていきたいです。(副部長・間久綸巴さん 2 年 秋の静岡県新人コンクール・アナウンス部門優勝)
- ・自分が今日まで読んでいた原稿が思っても見なかった視点からアドバイスを頂けて、貴重なレッスンを受けられて良かったと思いました。今回のレッスンで得たことを元に県大会に向けて読みを研究したいと思います。(石関福音さん 2 年 夏の全国大会出場)
- ・今回、最初に表現の引き出しは持ってはいるけど引き出せてないよねの意味だと捉えました。私の声は好き勝手表現をすると大袈裟で演劇調になってしまうので野路さんの仰っていることを噛み砕くと大きく表現してみよう！と思い、こんな表現もあるんだ！と新たな発見になりました。自分の中で少しスランプがあって焦っていたので、普段とは違う読みをしてみて別の視点から見られたと思いました。落ち着きすぎず、少し感情も入れてみて表現してみたいと思いました。ひとつの読みに縛られないで読みたいです。

(赤阪理菜さん 2 年 夏の全国大会出場 秋の静岡県新人コンクール・朗読部門優勝)

- ・レッスンでは野路さんに原稿の不明な点についてご指摘頂き、とても良い原稿になりました。読みについては流れてしまうことについては区切るところと繋げて読むところを決めることで良くなるとお話を頂きました。かたまりでたてることにより、流れるという私の中の課題を解決出来ました。他にも沢山ご指摘頂きいただいたことを活かし県大会まで練習をしていきたいと思います。

(平野ころさん 2 年 夏の全国大会出場)

<中藁科小学校 児童>

- ・方言ばかりで何て読むんだろうというところもありましたが、その後に説明して下さり、分かりやすかったです。(5 年女子)
- ・私は井川の方言が 500 年前から引き継いできたことをはじめてしりました。とても面白かったので、家族にも話してみようと思いました。(5 年女子)
- ・「てしゃまんく」を読んでもらって、すらすら読めてすごいと思いました。そして、じっさいのニュースの原稿をもらって「アナウンサーはこれを見て読んでいるんだ」と感心しました。ぼくは、一度アナウンサーの仕事をやってみたくなりました。(3 年男子)
- ・「てしゃまんく」のお話を聞いて、同じ静岡なのに言い方がちがうのがびっくりしました。(3 年女子)
- ・アクセントというものを知りました。それは高さや低さが違うだけでも、意味が変わってしまいます。「てしゃまんく」を読んでもらって、方言の勉強にもなった。(3 年女子)

- ・とくに心に残った方言は「ばしる」です。その意味は、行く、帰るだそうです。わたしはまたいろいろな方言を調べてみたいです。(3年女子)

<中藁科小学校 教頭>

読み聞かせをありがとうございました。低学年、中学年、高学年ともに、楽しく、そして学びの深い時間となりました。冬休み前によい時間をいただけたかと、大変感謝の気持ちでいっぱいです。